

歯止めがきかなくなったこと

第7期OB 諸角 陽太

寝ても覚めても雑貨のことばかり考えている。とにかくどうでも、こそっとした小物やアイディアグッズに全力でこだわるのが好きだ。ベランダで使うサンダルはご存じ『ぬぎっパ』を使っているし、キッチンではご存じ『米トギーナ』で米を研ぎ、『しぼりたカッター』でレトルトカレーの袋を最後まで絞り出している。とにかく雑貨選びをしている時の抑えられない心のワクワク感がたまらず、そのためなら『お値段以上』でおなじみのニトリを必要以上の時間をかけて徘徊するし、『ここは、ヒント・マーケット』がキヤッチコピーの東急ハンズってところでは、ちょっと、ターゲット品を見つけでもしたら独り言をつぶやきニヤニヤしながらパッケージの宣伝文句を読み漁る。

そんな中、かつて最も思案した雑貨が、『ドアストッパー』だ。ドアが閉まりきらないようにドアと床に挟まれている、あれだ。用途がシンプルなゆえ、とにかくあらゆる商品において面白みがない。そんな中、ニトリで、一人でバタリと出会った。その商品名が――

『ドア止めゾウ』。

驚くなかれ、ドアの下部に磁石で装着しそのままグレーのレバーを下げると床にストッパー部分が接着し、ドア止めを完了する頃にはゾウの様相を呈しているという優れモノだ。お値段は1,000円程度。そもそも100均で売っている『ドアストッパー』というカテゴリの中で異彩を放つプライス戦略。そもそも商品名自体“せっかくなら『ドア止めるゾウ』とかにしたほうがよくない？”と思わせるネーミングセンスも魅力だ。即購入し、帰宅後早速ドアに装着してみた。人生史上類を見ないワクワク感でドアを開けて、レバーを下げた止めゾウと見つめあいながら、手を放してみた。

ドアの重みにズズズと押され続け、最終的に弾かれる止めゾウ――

なぜだ、止めゾウ。お前の力はこんなものじゃないはずだろう。抑えられないドアと悔しさ。

歯止めが利かなくなった私は手を放す際のドアの位置や、止めゾウの設置場所を試行錯誤する。しかし、弾かれ続ける止めゾウと私の期待。パッケージに目をやると、『ドアを止められない場合は付属の超強力テープをお使いください』という粋なことが書いてあり、『ただしドアの塗料がはがれる場合があります』という生意気なことも書いてある。

“この際塗料ぐらい剥がれてもいいか？”

“逆にドア自体をもっと軽量なものに変えればいいか？”

“いっそもう一つ買って同時装着すれば馬力が上がるんじゃないか？”

“そうだ、止めゾウを使うタイミングに3歳の長男を呼んで、止めゾウと一緒にドアを抑えてもらおう！”

色々思案したが家族から賛同を得られず、最終的には今、100均で買った世界一シンプルなドアストッパーを使っている。

結局どうやってもドアを止められなかった止めゾウだが、最終的に私の無駄な抵抗だけは止めたのだった。



購入したドア止めゾウ